

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]  
 ( 令和8年6月解析分 )

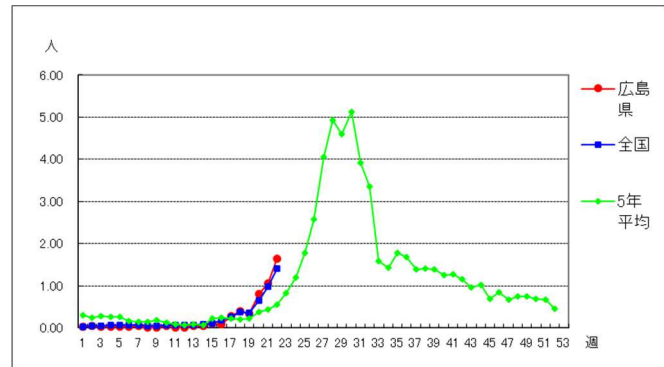
## 1 今月のトピックス

**6月4日(木)に「手足口病警報」を発令しました!**

### ■ 県内の発生状況

手足口病は、乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られるウイルス性の感染症です。免疫のない大人も子どもから感染することがあります。予後は良好な疾患とされていますが、まれに急性脳炎を生ずることもあります。

第22週(5月25日～5月31日)の福山市保健所管内において、定点医療機関からの報告患者数が警報開始基準値(定点当たり5)を上回ったため、6月4日(木)に、警報を発令しました。



全国的にも増加傾向にあり、今後しばらくの期間は流行が継続すると考えます。また、国内における手足口病流行のピークは夏季ですが、秋から冬にかけても多少の発生がみられますので、注意してください。

### ■ 手足口病について

病原体	コクサッキーウイルスA16型、エンテロウイルス71型など
症状等	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～5日の潜伏期を経て、口の中、手のひら、足の裏などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。</li> <li>通常、発熱は比較的軽く、高熱が続くことはありません。</li> <li>ただし、まれに髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を伴うことがあるため、高熱、頭痛、嘔吐などの症状が見られた場合には、早めに、かかりつけ医を受診してください。</li> </ul>
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>飛沫感染、接触感染、経口感染 (患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによる飛沫感染や、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入る接触感染、経口感染があります)</li> <li>症状が治まった患者からも2週間から4週間にわたり便の中にウイルスが排泄されます。</li> </ul>
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いの励行が基本となります。</li> <li>特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。</li> <li>タオルの共用は避けましょう。</li> <li>有効なワクチンはありません。</li> </ul>



広島県 手足口病警報

広島県感染症・疾病管理センター  
 (ひろしまCDC) ホームページ  
 「手足口病警報」を発令しています

## 2 疾患別定点情報 【速報値】

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

令和8年5月分(令和8年5月4日～令和8年5月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	14,003	37.64	-	↘	11	突発性発しん	45	0.20	0.28	→
2	インフルエンザ ※3	26	0.07	0.58	↓	12	ヘルパンギーナ	107	0.48	0.16	↑
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	234	0.63	-	→	13	流行性耳下腺炎	3	0.01	0.04	
4	RSウイルス感染症	51	0.23	1.15	↓	14	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
5	咽頭結膜熱	102	0.46	0.62	↗	15	流行性角結膜炎	32	0.42	0.63	→
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	540	2.41	1.82	↘	16	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	感染性胃腸炎	906	4.04	5.23	→	17	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
8	水痘	47	0.21	0.11	↘	18	マイコプラズマ肺炎	17	0.21	0.12	→
9	手足口病	215	0.96	0.40	↑	19	クラミジア肺炎 ※4	1	0.01	0.00	
10	伝染性紅斑	33	0.15	0.24	↑	20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.07	

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

令和8年5月分(5月1日～5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
21	性器クラミジア感染症	55	2.50	2.88	↘	24	淋菌感染症	18	0.82	1.32	↘
22	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.68	0.88	↘	25	メシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	75	3.75	3.25	→
23	尖圭コンジローマ	16	0.73	0.78	↗	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0.05	0.10	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※「薬剤耐性緑膿菌感染症」は、2026.4.6から「多剤耐性緑膿菌感染症」に名称変更され、また、全数報告に変更されましたので5月からは月報対象外になりました。

#### 急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患	手足口病	( 0.22 → 0.96 )
	伝染性紅斑	( 0.06 → 0.15 )
	ヘルパンギーナ	( 0.20 → 0.48 )
○急減疾患	インフルエンザ	( 0.87 → 0.07 )
	RSウイルス感染症	( 0.48 → 0.23 )

#### 発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象6疾患)について、県内154の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1, 2, 3	1～13	14, 15	21～24	16～20, 25～27	
定点数	37	56	19	22	20	154

## 3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	34	結核(34)〔西部保健所(2)、西部東保健所(2)、東部保健所(8)、北部保健所(2)、広島市保健所(11)、呉市保健所(2)、福山市保健所(7)〕
三類	8	腸管出血性大腸菌感染症(8)〔西部保健所(2)、西部東保健所(1)、東部保健所(2)、広島市保健所(1)、呉市保健所(1)、福山市保健所(1)〕
四類	21	レジオネラ症(9)〔西部保健所(1)、西部東保健所(1)、東部保健所(3)、広島市保健所(3)、呉市保健所(1)〕 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)(2)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 日本紅斑熱(10)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)、呉市保健所(4)、福山市保健所(4)〕
五類	43	アメーバ赤痢(2)〔西部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 ウイルス性肝炎(2)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(1)〕 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(2)〔西部東保健所(1)、福山市保健所(1)〕 ジアルジア症(1)〔福山市保健所(1)〕 バンコマイシン耐性腸球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(1)〔広島市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)、呉市保健所(1)〕 水痘(入院例)(2)〔東部保健所(1)、広島市保健所(1)〕 梅毒(18)〔西部保健所(1)、広島市保健所(14)、福山市保健所(3)〕 百日咳(10)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(5)、福山市保健所(4)〕